

第30回研究発表大会

大会テーマ:誰もが利用できる包摂的な科学博物館～人々のニーズや社会の要請に応える

口頭発表詳細

日 時 : 令和5年2月16日(木) 9:30～16:15

【会場】(浜松科学館 1階ホール)

【開会】

9:00 ～ 《 受付開始 》
9:30 ～ 9:35 《 開会挨拶 》

【第1ブロック：多様な属性の人々の包摂】

9:35 ～ 研究発表① 特別な支援が必要な子どもたちを対象とした教育普及活動
静岡科学館る・く・る 藪寄清香・加藤友梨香
9:50 ～ 研究発表② “誰一人取り残さない” Museumの包摂的プログラムの実践とその検証
～千葉市科学館の事業を中心に考察し提言する～
千葉市科学館 新 和宏
10:05 ～ 研究発表③ 科学館が「やさしい日本語」を導入するということ
～多摩六都科学館の多文化共生の実践から～
多摩六都科学館 高尾 戸美
10:20 ～ 10:30 《 質疑・まとめ 》
10:30 ～ 10:35 《 休憩 》

【第2ブロック：ICTの活用】

10:35 ～ 研究発表④ 誰を包摂するのか
～博物館が想定する未利用者・非利用者と活動戦略～
大阪市立自然史博物館 佐久間大輔・石井陽子
10:50 ～ 研究発表⑤ 科学館ボランティアによるオンライン科学工作教室の継続的な実践
大阪市立科学館 上羽 貴大
11:05 ～ 研究発表⑥ 誰でも利用できる「自然教育の場」をめざして
～学習サイト「自然教育園で学ぶ自然のメカニズム」の開発と活用～
国立科学博物館 下田彰子・遠藤拓洋・小川義和
筑波大学 山田博之、東京農工大学 齊藤有里加
NPO法人地域自然情報ネットワーク 梶並純一郎
11:20 ～ 11:30 《 質疑・まとめ 》

【ポスター発表】

11:30 ～ 11:40 《 ポスターセッション インデックスプレゼンテーション 》
11:40 ～ 12:30 《 昼食・休憩 》
12:30 ～ 13:30 《 ポスターセッション コアタイム 》
13:30 ～ 13:35 《 休憩 》

【第3ブロック：障がい者に配慮した展示・学習支援】

- 13:35 研究発表⑦ 視覚に障がいのある方を対象とした講座の実施について
港区立みなと科学館 河野 由佳
- 13:50 ～ 研究発表⑧ 視覚・聴覚障害者向け展示制作における工夫やアクティビティの実施について
日本科学未来館 永田 順子(調整中)
- 14:05 ～ 研究発表⑨ 宇宙をさわる特別展と手話付きオンライン事業
明石市立天文科学館 鈴木 康史
- 14:20 ～ 研究発表⑩ コミュニティや個に応じた学習展開を探る：
インクルーシブなアウトリーチプログラムの実践
神奈川県立生命の星・地球博物館 田口公則・佐藤武宏
- 14:35 ～ 14:45 《 質疑・まとめ 》
- 14:45 ～ 14:50 《 休憩 》

【第4ブロック：社会的課題への対応】

- 14:50 ～ 研究発表⑪ 11年前の東日本大震災を全国の人に伝える
磐梯山噴火記念館 佐藤 公
- 15:05 ～ 研究発表⑫ コロナ禍から開催した閉館後イベント等について
新江ノ島水族館 崎山 直夫
- 15:20 ～ 研究発表⑬ アートで伝える国連海洋科学の10年
糸魚川フォッサマグナミュージアム 香取 拓馬
- 15:35 ～ 研究発表⑭ 「包摂的で持続的な社会を考える」学習に向けた教職員対象セミナーの実施
兵庫県立人と自然の博物館 安田英生・福本優・橋本佳延・高田知紀
- 15:50 ～ 16:00 《 質疑・まとめ 》

【 閉 会 】

- 16:00 ～ 16:15 《 全体総括 》

ポスターセッション詳細

コアタイム時間：令和5年2月16日(木) 12:30～13:30

【会場】(浜松科学館 1階セミナールーム)

- 1 博学連携による子どもの発達段階に応じて学ぶ身近な自然「蜃気楼」
〔千葉県立中央博物館 大木 淳一〕
- 2 女性科学者の本からジェンダーギャップを考える
～ミニ企画展「科学の本棚Ⅱ 科学と女性」で発信したこと～
〔多摩六都科学館 原 朋子〕
- 3 静岡科学館における大人限定夜間開館の取り組み
〔静岡科学館る・く・る 代島 慶一〕
- 4 既存の事業で実施できる放課後デイサービスや児童発達支援事業所との連携
〔きしわだ自然資料館 風間 美穂〕
- 5 誰もが楽しみながら学べる博物館を目指して
～くじらの博物館の取り組みを事例として～ (仮)
〔太地町立くじらの博物館 中江 環〕
- 6 未就学児のふりかえりによる学びを補助する絵本作り
〔滋賀県立琵琶湖博物館 中村 久美子〕